

心象の大地

加藤 鉦次



地の詩

91×116



「地」

45.5×53



「地」

53×65.2



「地」

80.3×116.7



「地」

53×45.5



「地」

116.7×91



地の詩

194×162

心象の大地

通り過ぎた、遠い日の記憶は、事物をこえて、ある時、風や光、匂いに、遭遇することによって再びよみがえる。

どことは、特定の場所をさし示すことは出来ないが、画面の上で記憶の断片と心の反映をつなぎあわせ、色や形を捜しあてていく。

自分の快い場所を捜しもとめることを描く行為に結びつけている。